

令和3年9月7日
新型コロナウイルス感染症対策専門員会議

広島県の新型コロナウイルス感染症の状況にかかる評価と提言

【感染状況】

- 県全体の直近1週間の新規報告者数（人口10万対）は、9月6日時点で53.7人とピークは脱したもののステージⅣの水準を大きく上回り、市町別では、広島市（66.8人）、尾道市（64.7人）、呉市（54.1人）、福山市（52.5人）において、高い水準となっている。
- 感染者の年代別の分布は、30代以下の若年層が6割を超え、中でもこれまでの波と比較して10代以下の占める割合が高く、保育施設、学校の部活動によるクラスターも発生している。
- 感染力の強いデルタ株のスクリーニング検査陽性率は、8割まで増加しており、また、ワクチン接種後に感染した事例も複数報告されていることから、推移を注視していく必要がある。
- 新規報告者数は、減少傾向にあるが、9月後半の連休を前に対策を緩めれば再び急拡大する可能性は高く、油断できない状況にある。
- 県内の全人口に対するワクチン接種率は、5割弱の状況である。患者の同居家族のワクチン接種別にみた感染率を見ると、同居家族が2回接種した場合の感染率は低い。また、ワクチン接種後に感染した高齢者の中等症以上となる割合が低いデータが示されており、ワクチンの有効性が現れている。

【医療提供体制】

- 県全体の療養者数（人口10万対）は、9月6日時点で85.3人、重症者数は22人と、高い水準となっている。
- 確保病床の使用率は54.7%、入院率は19.3%といずれもステージⅣの水準にある。
- 重症患者は、50～60歳代の割合が高い状況である。重症化のリスクが高い基礎疾患を有する人や肥満傾向にある人はこの世代に多いことやワクチン接種が進んでいない可能性があり、今後、重症病床のひっ迫に注意が必要である。

【ステージ判断について】

- 新規報告者数は減少傾向にあるが、参考指標である直近1週間の新規報告者数（人口10万対）、療養者数は、依然として高い水準にあり、医療提供体制についても病床のひっ迫具合、入院率がともにステージⅣの水準にあることから、県全体としてステージⅣの状態にあると判断する。

【今後の見通しと必要な対策について】

- 県内においてもワクチン接種が一定程度進んでおり、その効果（感染防止、重症化予防）に関するデータや分析も蓄積されている。それらの知見を感染拡大防止策に繋げるとともに、更なるワクチン接種率向上を目指し促進することが、最も有効なコロナ対策である。
- 特に重症化リスクの高い層（40～60歳代で基礎疾患を有する方や肥満の方）や接種率の低い若年層、また、現在のワクチンを接種することが出来ない12歳未満の子供を持つ親世代への接種推進は、重症化予防、家庭内感染防止の点からも非常に重要である。
- 人流の抑制と接触機会の削減を基本とした行動制限や施設の使用制限などの強い対策については、デルタ株の感染力に鑑み、これまでの対策とその効果等を踏まえ、新規報告者数が警戒基準値を安定的に下回るまで継続し、しっかりと抑え込んでいく必要がある。
- ワクチンを2回接種した者の感染が散見されることから、県民に対し、ワクチン接種の有無にかかわらず、自身の感染防止対策の徹底を呼びかけることが重要である。
- 特に学校や保育園での感染者数の増加が懸念されることから、保護者は、家庭内にウイルスを持ち込まないように、日々の健康状態の把握や迅速に検査を受検することが必要である。
- 患者の重症化を防ぎ、病床のひっ迫を防ぐため、重症化リスクの高い患者へ抗体カクテル療法が早期に行える仕組み作りを進めるとともに、すべての医療機関が協力し、宿泊療養施設入所者及び自宅療養者の診療体制を強化していく必要がある。